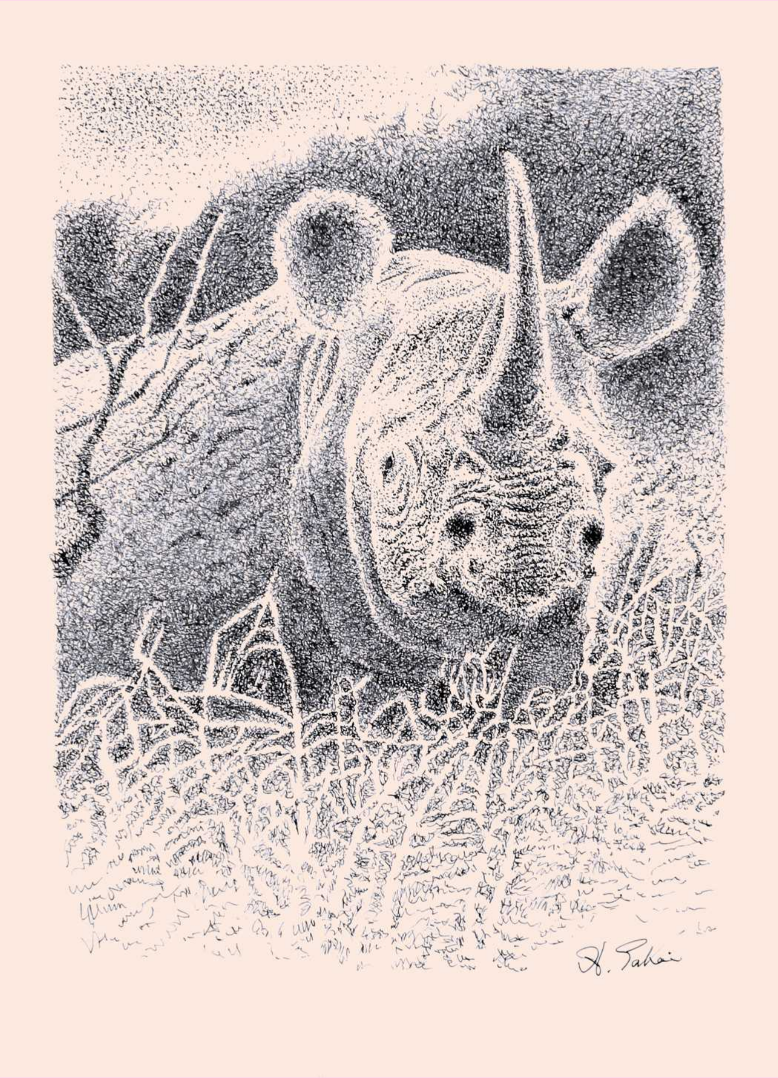
ネイチャーなら

《わたしたちは大和の自然を愛します》

発行2015年３月1日
3月号・第158号
奈良・人と自然の会
会長 藤 田 秀 憲



Contents

URL http://www.naranature.com

多土済々……………………………… ①
Monthly Repo.ならやま……………… ②
里山の今……………………………… ③ ④
新春講演会…………………………… ⑤
2月歴文研修会……………………… ⑥
「鳥」シリーズ……………………… ⑦
やさしい病害虫講座………………… ⑧
青垣春秋……………………………… ⑨
27年度月例研修会計画……………… ⑩ ⑪
27年度自然観察会計画……………… ⑫
27年度歴史文化クラブ計画………… ⑬
俳句百景……………………………… ⑭
癒しの散歩道＆ならやま茶論……… ⑮
Galleryならやま…………………… ⑯
ならやまプロジェクト（2月）……… ⑰
字遊字感……………………………… ⑱
行事案内part1……………………… ⑲
行事案内part2＆奈良学クイズ……… ⑳
幹事会報告…………………………… ㉑
ペン画に寄せて・申し合わせ・編集後記・ ㉑

名士済々

古墳に魅せられて

坂東 久平 さん

顧問　川井　秀夫

愛称　バンキューさん。何とも語感が印象的で、心に響きます。お見かけすると、何処か大店の番頭さんの様な、和服に前垂れを着けると時代劇の商家の善良な大番頭さんを髣髴する雰囲気を感じます。

歴文研修会・纒向石塚古墳にて

当会への入会は２０１１年、新春講演会に一般参加され、当日のパンフ「ならやまの四季」に興味を引かれたのが動機とか。ご出身は京都太秦の地で過ごされ、染色技術を専攻されて、化学メーカーでご活躍された由。販技一体の会社方針で技術屋さんながら営業畑で各地を転々、企業戦士として現役を全うされた様です。

退職後は、奈良観光ボランティアガイド「朱雀」に入り五年間勤められた様ですが、歴史・仏像・建築物など未知な分野の知識が要求され、何度か諦めがあったようですが、仲間に刺激され繋いで来られた苦労話をお聞きしました。

この間、修得された知識を生かされ「橿考研」にて展示物の解説員も経験されて古代史に興味を持たれ、特に古墳時代に傾倒される事となります。

当会ではいち早く「歴・文クラブ」の核メンバーとして、既にご承知の様に「古墳博士」として大いに活躍して頂いております。

また、一才能に留まらずＩＴ技術の才能を生かされ、編集部の番頭（坂東）さんとしてＨＰの立役者として「電脳博士」の尊称を奉ります。

私の様なアナログ人間をデジタル人間に教導して呉れたのもこの方で、パソコンを駆使出来るまで（初心の域ですが）の先生で頭が上がりません。

体調の方は少し難聴の疾病をお持ちの様ですが、お酒も良く交酌の機会が有り、なかなかの上戸で圧倒されております。趣味も旅行・登山・写真・蘭栽培と多彩で、ならやまでも積極的に山仕事に取り組んでおられます。

最近は私の俳句塾にも参加され貪欲に出句され、好漢バンキューさんの多彩な晩年にエールを送ります。

（写真）里山Ｇ・第五地区にて

贈る一句

生きる日の活きる心に春の雪
秀夫

Monthly Repo.　ならやま

1月23日(金) 臨時活動　曇り　29名

先週に引き続き今週も活動は雨で中止、臨時活動となった。第5地区の枯れマツの伐採、ナスの豊作を目標に栽培予定地へチップの配給。第5地区の除草、池の水抜き、花木へ寒肥。

1月29日(木)　晴れのち曇り　62名＋1名

天気も良く久しぶりの気持ちの良い活動日和となった。午前中は一斉作業。全員がヘルメットと剪定鋏とノコギリで武装し、里山林へ乗り込みシイタケのほだ木を作った。午後はビオトープ池の泥あげ作業の一斉作業。バケツリレーで池から泥を運びだし、皆さん泥んことなったがニコニコ！男性陣は奥様からお目玉をくらったかも。

里山Gは薪つくり、エコファームGは育苗ハウス支柱の竹ひご作り、花はムギ畑の除草。果樹グループはウメのカイガラムシのこすり落し、突然の攻撃でカイガラムシもびっくりしたことであろう。

お昼は美味しい粕汁とダイコン炊き。

2月5日(木) 臨時活動　曇り一時晴れ　32名

またしても気象台のチョンボ（前日の降雨予想60%、朝にはあわてて？30%に変更）。朝から雨の気配がなく、次々とメンバーがやってきたので急遽臨時活動となった。

先週に引き続き第5地区の枯れマツの伐採。草に負けないようにイチゴの除草、水路の整備、ムラサキハナナの除草。製材化したスギ材を整理して積み替え、いつでも使える状態にした。

休憩用のしっかりとしたイスを貰い受けた。

2月6日(金) 臨時活動　曇り一時晴れ　28名

前日の代替活動。第 5 地区の枯れマツの伐採、育苗ハウス用地の整備、A地区（ならやま池の北側の森)の除草､ジャーマンアイリス花壇の除草。

2月10日(月) 特別活動　曇り　10名

雨で予定が大幅に狂ったため、果樹グループが緊急出動し、第5地区の果樹・サツキに施肥・チップ投与を実施。

2月12日(木)　曇り＋晴れ＋小雨
62名＋1名

午前中は一斉作業で全員第5地区へ行き、枯れマツの枝処分とイバラの整理、松林内が予想以上に綺麗になった。マッタケよ！芽を出せ！

里山Gは薪つくり、エコファームはエンドウの支柱と育苗ハウスつくり。景観Gは第5地区の通路の除草、ビオトープは泥あげ、花はアジサイの除草・施肥。

2月19日(木)　曇り　58名

28日のイベントに向けて､植樹とバームクーヘン作りの準備、BC 周辺の除草等、着々と準備は進んだ。育苗ハウスの棟上げ、エンドウのネット張り。湿地の歩道橋が完成した。金魚草の植え替え、ならやま散策コースの整備。

（木村　裕）

ならやま花だより

平岡　久美

「ならやま大通り」に面した斜面にヤブツバキが数本あります。うっすらと暗い場所に真っ赤な花が１輪、凛とした姿に思わず見とれてしまいました。今年は、花が少ないのかと見渡すと、蕾がいくつも出番を待つが如くついています。楽しみ！楽しみ！

万葉集にも出てくるツバキは、遠い昔から日本人の心を捉えてきました。江戸時代には「高貴な花」として愛され、平民に広めないために「不吉な花」という噂がたてられたようです。とんでもない迷信にツバキはどんな思いを抱いていたのでしょう。

多くの園芸種が作られ、バラのように華やかなツバキが数多くありますが、私はツバキといえばヤブツバキが１番だと思っています。

ヤブツバキ

種子には良質の油が含まれており、椿油と呼ばれる。食用や整髪料になる。

【草　花】オオイヌノフグリ・ホトケノザ
ヒメオドリコソウ・タネツケバナ
ナズナ・オランダミミナグサ
ハコベ・ノゲシ・セイヨウタンポポ
オニノゲシ・タビラコ・フキノトウ

【草の実】ヘクソカズラ・ヤマノイモ
ヒヨドリジョウゴ

【木の花】ソシンロウバイ・ユキヤナギ
サザンカ

【木の蕾】ウメ・ヒサカキ・ジンチョウゲ
キリ・アセビ・ミツマタ・ガマズミ

【木の実】ウメモドキ・マンリョウ（赤・白）
ヤブコウジ・フユイチゴ

【花　壇】ナバナ・スイセン（2 月 13 日現在）

ペタキン日記　34

羽尻　嵩

1月 28 日（水）　タナゴ池のタガイの調査に近大の入江君が来る。プランター内のタガイの数は９個体だった。昨年１月に 11 個体だった貝のうち、1 個体は昨年 11 月に死んでいることが確認され（原因は不明）、もう１個体はプランター内の貝を移し替える時、移し忘れがあり死なせてしまった。

1 月 29 日（木）　この日の午後、「ならやま池」と「東池」の泥除去作業をした。初めは 10 数名でやりだしたが、次第に人数も増え、終わるころには 20 数名になっていた。　特に東池はできてから３年目で大量の泥が蓄積していて、バケツに入れた泥の重さも半端ではなかったが、２時前には作業を終えることが出来た。協力していただいたみなさんありがとうございました。

ならやま虫だより

菊川年明

★冬越しのコクワガタ

ある年の夏、ならやまでコクワガタ（雄）を見付けたので持ち帰り、ペットとして飼っていた。秋になっても元気で、餌も食べ続けていた。秋の終わり頃になると、さすがに動きが鈍くなり、餌も食べなくなったので生命が尽きるのかと思いながらもクヌギマットの中に埋めておいた。そして屋内ではあるが暖気の届かない一隅に置いておいた。

真冬になってコクワガタのことを思い出し、クヌギマットを掘り起こしてみると、胴・脚ともに硬直し、ぴくりとも動かない状態で現れた。てっきり死んだと思い手の平にのせて暫く眺めていると、硬直した脚先の爪がほんの少し動いたような気がした。しかし、気のせいのようにも思えた。暫くすると爪がまた少し動いた。今度は錯覚ではないとわかった。暖かい部屋へ持ち込み、手の平の上で体を暖めると、もぞもぞと動くようになった。越冬状態で生きていることがわかったので、またクヌギマットの中に埋め戻し、春を迎えた。

４月頃だったと思うが、掘り起こすと，今度は最初から動きがあった。それからは昆虫ゼリーをいつでも食べられるようにしておいた。そして、夏・秋を過ごし、初冬まで生きていた。コクワガタはオオクワガタやヒラタクワガタと同様に成虫で２～３年生きると言われている。わが家のコクワガタは、捕獲の年に成虫になった個体かどうかはわからないが、少なくとも２シーズンは生きていたことになる。

冬期にならやまで越冬昆虫を探していると、コナラの朽ち木からコクワガタが現れることがある。下の写真は、その後のある年の３月に現れたものである。

パトロール班レポ

辻本信一

日本の天気はほぼ１週間周期で変わると言うが、このところ余りにも見事に「木曜と言えば雨」の天気が続いている。　おかげで今年に入ってからもう既に２度パトロール当番を逃している。

今回は久しぶりに晴れの木曜日を迎え、当番では無いが第２ルートのパトロールに同行させて頂いた。　久しぶりの観察路散策に心も弾む。

コース入口に入るや否や、まだ数は少ないが、オオイヌノフグリ、ミドリハコベの可愛い小花の出迎えを受けた。　本番を迎えるには時期尚早ながら、春の訪れを間近に感じさせる妖精たちである。

観察路に入れば、冬の間にすっかり葉を落とし幾分見通しの良く成った木々の枝先には春の準備を整えた出番待ちの冬芽が見える。

かたや常緑樹に目を向けると、艶やかな新緑は日の光に映え春の装いを感じさせる。

ナラ枯れ被害木の痛々しい姿は今も散見するが、暫くご無沙汰している間にパトロール班他メンバーによる観察路整備は着実に進み、急峻な坂道の階段整備、倒木処理、案内板設置等、きめ細かな整備が成されメンバー各位の努力の程が偲ばれる。

散策路中ほどでは普段あまりお目に掛る事の無いツクバネガシの木が名札を施され立っていた。（ツクバネガシと言えば葉の付き方が特徴的で、枝先に向かって茎の廻りに螺旋状に葉を付け規則正しく一つ目の葉から数え５番目のところで２周と成り同じ位置にくると言う特徴が有る。）

更にルート後半では枝を刈られたカクレミノ（俗にいうジャイケンの木）の小木を見つけた。

そばに切り落とされていた枝の葉柄の長さがまちまちだったのでそれと分かったが、何で切られたのだろうと思っていたら、切り残された枝には葉が一枚残っていて、その葉の形はチョキだった。

ムム、これは？　「犯人はハサミだ」とのカクレミノのダイイングメッセージ？？　まさか？？？

新春講演会

開催日　：　平成２７年１月２４日（土）
１４：００～１５：５０
場　所　：　奈良市中部公民館　第４講座室
講　師　：　田中　克　京都大学名誉教授
・（公財）国際高等研究所リサーチフェロー
・ＮＰＯ法人「森は海の恋人」　理事
・（気仙沼）舞根森里海研究所長　　他
演　題　：　「森と里と海のつながり」
－ 人と自然を紡ぎ、持続可能社会を見据える －
参加者　：　６１名（会員４７名、一般１４名）

田中先生が京都大学での稚魚の研究の中から生み出された「森里海連環学」の理念を基に自ら活動されている「東日本大震災後の三陸海岸の舞根（もうね）湾地区の再生」や「瀕死の海、有明海の再生」のお話を伺いました。森、里、海のつながりの大切さを痛感した講演会でした。

（講演要旨）

1.気仙沼舞根湾再生への取り組み

宮城県気仙沼市にて牡蠣養殖業を営む畠山重篤氏は、「豊かな海を取り戻すには、上流の森を守ることが大切である。」ことに気づかれ、1989 年「牡蠣の森を慕う会」結成を経て、2009 年 NPO 法人「森は海の恋人」を立ち上げました。

田中先生は、この「森は海の恋人」の理事として、地元の漁業者やボランテイアと一体となって舞根湾の再生に活動されています。

（1）「気仙沼舞根湾調査」の立ち上げと展開

・2011 年 5 月から、巨大地震や津波が沿岸生態系に及ぼした影響と回復の過程に関する調査を開始。「森は海の恋人」を支援する全国の研究者、ボランテイア団体の参加のもと、その調査回数は 23 回に及んでいる。その結果、海の中の自然は着実に回復していることがわかってきており、地元の漁民に明るい希望を与えています。

①津波により捕食者がいなくなりすべての生き物に餌がいきわたった結果、新たな生き物社会が再構築されている。（キヌバリ稚魚の著しい増加）

②2014 年 7 月、舞根湾の岸辺の生き物の象徴メバルが震災後 3 年を経過して帰ってきた。

③舞根湾奥には、地盤沈下で半分海水、半分真水の湿地が生じ、蘇った干潟ではアサリの稚貝が大量に発生着底した。

（2）自然のつながりを断つ「防潮堤」への対応

舞根地区では、住居は高台へ移転し、元の住居跡は湿地として残し、「防潮堤」は不要との結論を出しました。行政にも働きかけ、三陸では唯一防潮堤を作らない地域となっています。

（3）ウナギ復活作戦「ウナギの里づくり」開始

舞根湾奥のよみがえった湿地や干潟に多様な生き物が出現しています。舞根湾奥に湿地や干潟ができれば、ウナギやアサリの生息場所となり、絶滅の危機に瀕している生物の保全につながります。

（4）「舞根森里海研究所」の設立

昨年 2014 年 4 月に、三陸海岸の森里海のつながりに関する研究・教育の拠点として「舞根森里海研究所」が気仙沼市舞根地区にオープンしました。

田中先生が初代所長に就任され、国内外の研究者や子どもの教育事業などに幅広く使われることが期待されています。

2「有明海の再生」への取り組み

森と海のつながりが断ち切られ、アサリの収穫量も激減している「瀕死の海、有明海の再生」も、私たちの価値観を「森里海連環」の方向に変えることからら解決の道筋が見えてくると提言されて

います。

（寺田　孝）

歴文研修会

纏向遺跡を訪ねて

(平成２７年２月１１日)

２月１１日（水)。この日は、空から陽も顔を出し、前日までの厳しい寒さも少し和らいだ絶好のハイキング日和となりました。総計２９名,元気に巻向駅に集合。やはり明るい春の到来が人の気持ちを和やかにし、足を外に誘うものなのでしょうか。また、長い間テレビや新聞等では目にすることがあっても実際に足を運ぶことの難しかったこの遺跡に足が伸ばせて感慨深い一日になりました。

集合後、早速歩いて数分の駅近くの辻地区の建物群跡へ。ここでは川井会長の挨拶のあと岩本先生から規模や年代、遺構についての細かい説明がありました。

特に辻地区の５つの建物群には居館や物見櫓も含まれ、遺蹟は東西２キロ、南北１．５キロに広がっていることやその中心線は東西に一直線になっていることなどを教えて頂きましたが、この時代としては最大級の建物群であったことにも驚かされました。その後、近くの石塚、勝山、矢塚古墳、そして東田大塚（ヒガイダオオツカ）古墳に足を伸ばして坂東さんから説明を受けました。これらは前方後円墳出現前の古墳で纏向古墳群の中でも東田支群と呼ばれていますが、第二次世界大戦中の高射砲陣地設営のために削られ、後円部の墳丘が４メートルだけ残されている石塚古墳や現在では前方部が殆どみえず、後円部だけが残されている矢塚古墳の姿が記憶に残りました。

そして箸墓へ。この古墳は巨大な前方後円墳で被葬者は卑弥呼ではないかと言われていますが、この周りで暖かい日差しを受けながら昼食を摂りました。その後岩本先生から箸墓古墳にちなんだ邪馬台国や卑弥呼の話を聴きました。ここではいろいろ論議がある箸墓古墳の被葬者が卑弥呼であるといった説について話をされましたが、邪馬台国の年代や歴史を記述している魏書東夷伝倭人条を引用しながら、更にここで出土した土器の放射線炭素年代測定の結果から、卑弥呼の埋葬は間違いがないのではないかといったお話もされました。

次に訪れたのは､ホケノ山古墳､茅原大墓古墳､そして狐塚古墳でした。これらの古墳は箸墓古墳を含め纏向古墳群の中では箸中支群と呼ばれて、前方後円墳出現期のものが多く、ホケノ山古墳は纏向型前方後円墳、茅原大墓古墳は帆立貝式の前方後円墳、そして狐塚古墳は方墳と考えられています。

集合写真・箸墓古墳にて

今回訪れたのは、計８基の古墳でしたが、これ以外にもこの遺跡には築造時期の分かっていない円墳等もたくさんあり、見渡す小山が全部古墳に見えて仕方がありませんでした。

そして、最後に訪れたのは桜井市立埋蔵文化財センター。ここは昭和６３年に建設され、開発に伴う発掘調査をはじめ、出土する遺物の集中的な管理を行っていますが、それ以外にも展示室では桜井市が行ってきた発掘調査資料を中心に桜井の通史をテーマとした常設展や特別展、速報展を行なっています。私たちが訪れた際には中村学芸員さんから纏向遺跡についての丁寧な説明を受けました。

その中で土器の見分け方として①形が地域によって違うこと、②土器の色が地域によって違うこと､③作り手の技法が違うことに触れられました。また出土した土器には北朝鮮のものまであることには特に興味を惹かれました。

その後、ＪＲ三輪駅まで歩き、充実した思いを抱きつつ巻向を後にしました。

（八木　順一）

鳥シリーズ
3月　　コミミズク

小田　久美子

「コミミズクとの再会」

ミミズクはフクロウの仲間で、漢名では「木菟」「木兎」(ぼくと…木の上のウサギ)と書き、その他にも色々な字があります。　我が国では「耳付く」「耳突く」と書き古名では「ツク or ズク」と呼ばれました。

日本には北東アジアから冬鳥として渡来しますので冬の季語になっています。

表記のコミミズクはカラス大で、耳のように見える羽角が小さいことから「小耳木兎」と名付けられました。

この仲間は顔の周りが羽に覆われ、ネズミなどの獲物の音を聴き取るのにパラボナアンテナの役目をしています。

この冬、淀川の河川敷に合計 7 羽（最大時は 15 羽）いるとの便りが届きました。

いつものようにギャラリーが凄いと聞くと、又いつものように二の足を踏んでいましたが、伊賀の尊敬するリーダーさんからのコミミズクを見る自身の熱いメールを拝見して、ポンと背中を押された気がして出かけました。

初心者の頃、巨掠池の夕暮れに飛ぶ、ほとんどシルエットのようなコミミズクをただ一度見ただけです。

飛翔（撮影　加納）

熱心だったその頃は会いたい一心で、何度か巨椋池通いをしましたが振られっぱなしで長く片思いの鳥。

四半世紀経って漸く会えた今年は「思い出の鳥年」となりました。

ひと段落した様子のギャラリーですが、それでも 60～70 人のカメラの砲列です。

何羽かのコミズクは飛び廻って地面に降りても獲物はなかなか獲れないようです。

他人(他鳥)が捕まえた獲物を奪おうとしたり、のんびり（？）おとなしく杭に止まっているノスリに、まるで八つ当たりするかのように何度もケリを入れるアグレッシブルな個体や、同じ杭にじっとしていて、たまに近くに降りてカメラマンが「スワッ!!」と色めきたっても又元の杭に帰って欠伸するように鳴いている個体など、個性の違いなのか様々な姿が見られました。

欠伸？　鳴く？

時折、あちこちで声の悪い猫(犬のようでも)が鳴くのがコミミズクの声だと初めて知り、ハヤブサ・チョウゲンボウが飛び、ゆったりと飛ぶトビの姿が時間を忘れてしまいそうな至福の時でした。

かつては、平城旧跡でも見られたコミミズクですが、どんどん環境が変わる中彼らを迎える土地では無くなったのも時代の趨勢でしょうか。

やさしい病害虫講座　11　害虫の予防散布は効果があるのか？　木村　裕

頭が痛いときにはトンプク、下痢をしたときには正露丸、流感にかかったときはタミフルと、皆さんは症状に合せて薬の使い分けをしていますね。野菜や植木でも同じです。発生している害虫や病気に合せて最も効果的な薬剤を選択する必要があります。皆さん「そんなことは十分に分かっている」と言いたいところでしょう。しかし、皆さんが買ってくるのをみていると、殺虫剤ならマラソン、ついでスミチオン、殺菌剤ならダイセンが多いようです。

庭木の害虫対策でよく受ける質問が「植木の害虫を予防するためにどんな薬剤を散布したらよいのでしょうか？」「いつごろ散布したらよいのでしようか？」です。答えは？？？です。

事前に散布しておけば害虫が寄り付かないという好都合な殺虫剤はありません。多くの殺虫剤は今そこにいる害虫を殺すのが基本です。散布直後に飛んでくるドジな害虫に対しては効果がありますが、最近の農薬はパッと効いて、パッとなくなるのが特徴で、1週間も効果が持続するのは稀です。それゆえ虫の姿を見てからまくようにしてください。

例外的に植えつける前に株元の土の中に混ぜ込む粒剤（粒状の薬剤でそのまま使う）は、じょじょに成分が溶け出すので 30 日くらいは効果が持続します。土の中の害虫、例えばコガネムシの幼虫を防除するにはいいですね。またこの薬剤は植物の根から吸収されて地上の葉や芽に移行しますのでアブラムシなどの防除にも非常に効果的です。ただし有効期間内(30 日程度)のみです。

この粒剤の地上の虫に効果があるのは、アブラムシが主で、アオムシではまだ生れてまもない小さな段階の虫のみです。もう一つ大事なことは、果樹や植木では効果がないということです。鉢植えの小さな苗木では少し効果が期待できる程度です。地植えの庭木や果樹では1本当たり 1kg(1袋）くらいを樹の回りにまけば効果が現れますが、それとともに樹に対しても影響があり、枯れることも少なくありません。

害虫にはいろいろありますが、薬剤を選択する面からグループ分けをすると、

- 汁を吸う虫：アブラムシ類、アザミウマ類、グンバイムシ類
- 葉をかじる虫：アオムシ、ヨトウムシ、ケムシ類、テントウムシダマシ類
- カイガラムシ類
- ハダニ類、ホコリダニ類

これら全てに効果のある薬剤はありません。それゆえ何を狙うのかによって薬剤が異なります。なんにでも効くと称する薬剤は残念ながらどの虫に対しても効果が低いです。一方汁を吸う害虫にのみに効く薬剤は汁を吸う虫に対しては非常に効果が高く、葉の裏に潜んでいる虫に対しても劇的な効果があります。

ハダニ類やホコリダニ類には通常の殺虫剤では効果がありません。ハダニ類は昆虫ではないと言ってしまえばそれまでですが、散布すれば成虫や幼虫はかなり死にます。しかし卵は生き残ります。この虫はにわとりのように毎日卵を産み続けているため、寄生した葉には虫の数の何倍もの卵があり、すぐに孵化してきますので1週間もあれば元の状態にまで復活します。それゆえこの虫の防除のためには卵を殺すことが必須で、ハダニ専用剤を散布せねばなりません。一方このハダニ剤はアブラムシやアオムシなどには効果はほとんどありません。

カイガラムシは常にロウ状の殻を被っているので、薬剤を散布しても虫には直接かかりません。「今日は雨が降っているのかな」と思われる程度です。とくに皆さんの目に触れる時期は成虫の段階になっているので抵抗力も最大になっています。弱点は、卵から孵化してお母さんの殻から外へ這い出すときです。海がめが卵から孵化して海へ移動する時期が危険な時期ですがそれと同じで、孵化直後は殻がないので防除適期です。

青垣春秋

隠れ古社寺　ひとり旅　⑭

歴史文化クラブ
川　井　秀　夫

おもしろ地蔵さん　見て歩き　Ⅰ

立春の日、奈良市内へ向かう。午後の陽は明るくちょっぴり春の息吹を感じる。地蔵信仰も平安時代に拡がり今なほ庶民の信仰が篤い。冥界には迷いのない浄土と、成仏できない「六道」と言う迷いの世界がある。六道には「地獄」「餓鬼」「畜生」「修羅」「人間」「天道」とあり、前三つが三悪道、後が三善道と言い生前の所業により、地蔵菩薩が浄土へ善導されると言う。現世の人々にも願いを叶える諸地蔵が市井の一隅に散見されるが、そんな地蔵のなかで珍奇な地蔵さんを訪ねてみた。

油掛け地蔵

近鉄奈良から天理行のバスで「古市」下車。大文字の高円山に向けて１０分。新旧の家並の一隅にあった。等身大の姿は黒々と油光りして異様な威圧感がある。鼻のてっぺんが欠けてご面相はお世辞にも良くない。こんな伝承がある。昔、岩井川に大洪水があり、流れて来たのがこの地蔵、信心深い老人が引き上げた夜夢枕に「私は子を授ける地蔵だ、毎日種油を掛けてお参りすれば必ず子を授ける」と、以来、参詣者が絶えなかったと言う。

また、藤堂氏の城下で相撲があり、奈良の力士が是非勝たして下さいと祈ったが負けてしまう。力士は怒り地蔵に石を投げつけ鼻梁が欠けてしまう。帰り道力士は倒れ鼻を折って死んだと言う。以来、鼻欠け地蔵とも呼ばれている。

おしろい地蔵

奈良駅へ帰り、小西通りを１キロ直進。旧市街の南風呂町に入る。主道から外れて石畳の小路を下ると民家に囲まれた「十念寺」。奈良出身の鎌倉期の学僧　忍性（１２１７～１３０３）の開基。

門は施錠され勝手口から入る。本堂の脇の地蔵堂に行儀よく座っている。名前の通り真っ白い顔に頬紅、目鼻立ちもパッチリ、アイラインまで施した洒落たもの、光背まで赤く塗られており厚化粧した派手なお地蔵さんだ。
別名「一言地蔵」「瘡直し地蔵」と呼ばれ、おできや瘡に霊験があるという。化粧は願いの叶った人がお礼の意味を込めて塗られたものである。この風習も良薬の出現で廃れ最近は願を掛ける人も殆ど居ないと言う。色も褪せて心なしか寂しげなお顔に見えた。

平成 27 年度月例研修会年間計画　【保存版】

今年度も多くの皆様方のご参加をお待ちしています。

月	日	曜	行　先　・テーマ	概略内容	担　当
4	8	水	「幻の大仏鉄道めぐり」 （お花見ハイク）	ＪＲ木津駅　鹿背山不動尊　梶ヶ谷隧道　観音寺橋台　ＪＲ加茂駅	川井　青木
5	12	火	「春の京都植物園」 （自然観察会）	園内自然観察　(ボランテイアガイド付き)	倉田　櫻木 川口
6	未定		「当麻の里と二上山」 （歴史文化探訪）	当麻寺　石光寺　笠堂　当麻蹴速神社　大津皇子墓　葛城坐二上神社	弓場　杉本 寺田
7	未定		「清流のみたらい渓谷」 （健康ウオーキング）	天川川合バス停　みたらい遊歩道入口　観音寺橋　洞川温泉センター前	木村　冨井
8	未定		夏季研修会　視察 「尼崎２１世紀の森づくり」	尼崎の森中央緑地内 パークセンターでレクチャーと現地視察	寺田　羽尻 青木
9	未定		「高野山 町石道（後半）」 （健康ウオーキング）	高野山駅、根本大塔、大門、矢立、笠木峠、二つ鳥居、古峠、上古沢駅	森　　境
10	19 20	月 火	一泊研修旅行 「兵庫県但馬方面」	第１日　竹田城跡　但馬高原植物園 第２日　兵庫県立コウノトリの郷公園他	羽尻　田矢 山本　寺田
11	未定		「府民の森 むろいけ園地」 （自然観察会）	園地内自然観察	辻本　平岡
12	8	火	「京田辺一休寺・甘南備山」 （忘年ハイキング）	ＪＲ京田辺駅　棚倉孫神社　酬恩庵　一休寺、甘南備山　後 忘年会	山中　八木 (忘年会)塩本
1	未定		「新春講演会」	講師　京都大学前総長 工学博士 松本　紘先生	藤田　阿部
2	未定		「冬鳥探鳥会」	検討中	小田　勝田
3	未定		「桜井南部の歴史街道」 （歴史文化探訪）	若桜神社　安倍山城跡・土舞台　安部文殊院　メスリ山古墳　上之宮遺跡	中井　古川 藤田　寺田

※1　諸般の事情により、実施日、行先等を変更する場合があります。
※2　バス旅行となる 10 月一泊研修会は事前予約制となります。
※3　裏面に簡単な月別解説案内を載せています。

担当　寺田　孝　羽尻　嵩　山中笙子　山本妙子

平成 27 年度月例研修会解説

◆　４月　「幻の大仏鉄道遺構めぐり」

明治３１年に京都府南部のＪＲ加茂駅―(大仏駅)－ＪＲ奈良間に開通し、僅か 9 年で廃線となった関西鉄道大仏線。今も１００年前の鉄道遺構が残る。ハイキングロードとしても人気。

◆　5 月　「春の京都植物園　自然観察会」　（「自然教室チーム」）

総面積約２４万㎡、収集栽培植物約１万 2000 種類の日本を代表する植物園。広大な園内をボランテイアガイドに案内していただき、春の様々な植物を観察。

◆　6 月　「当麻の里と二上山を訪ねる」（「歴史・文化クラブ」）

二上山の東麓当麻の里は、大和と難波を結ぶ古代の「横大路」が通る歴史と伝承の宝庫。
相撲の始まりの当麻蹴速、悲劇の主人公大津皇子、中将姫にまつわる縁の社寺を探訪する。

◆　７月　「清流のみたらい渓谷を歩く」

大峰山系から流れる山上川にできた渓谷。エメラルドグリーンの水、巨岩・奇岩の景観。約７キロの道で、到達地点にある名湯洞川温泉に入浴。家族連れでも歩ける遊歩道。

◆　８月　「夏季研修会　“尼崎２１世紀の森づくり事業”の視察」

かつて阪神臨海工業地帯であった尼崎市が、平成１４年から市民、企業、団体、行政と一体となって、１００年計画で町の森づくりにまい進している。その森づくりの現場を視察し研修。

◆　9 月　「高野山の信仰の道　高野山 町石道(後半)を歩く」

昨年実施した町石道歩きの後半部分。今年開創１２００年を迎える根本大塔から歩く。昨年と比べ下りがほとんどだが距離がやや長い。鎌倉時代の面影を残す歴史街道歩き。

◆　10 月　「一泊研修旅行　兵庫県但馬方面」

天空の城で大人気の「竹田城跡」、兵庫県観光百選第１位の「但馬高原植物園」、コウノトリの保護増殖で有名な「兵庫県立コウノトリの郷公園」等を訪ねる。いずれも人気のスポット。

◆　11 月　「府民の森　むろいけ園地の自然観察会」　（「自然教室チーム」）

四条畷市の緑の文化園にある水辺の自然公園。湿生花園や野鳥も観察できるネイチャ―トレイルがある。水辺の植物が豊かな園地の自然観察会。

◆　12 月　「京田辺　一休寺から甘南備山を歩く」

一休和尚の「酬恩庵」から、神の御座所とされる甘南備山(標高 220m)へは、京田辺駅周辺の手近なハイキングコースとして一年中親しまれている。終了後奈良市内の忘年会会場へ向かう。

◆　１月　「新春講演会」

京都大学前総長　工学博士　松本　紘先生　に講師としてご依頼している。

◆　２月　「冬鳥探鳥会」

探鳥場所検討中。

◆　３月　「桜井南部の歴史街道を歩く」（「歴史・文化クラブ」）

桜井市の南には古墳時代初期から奈良時代にかけて多くの史跡が点在する。初期巨大古墳の茶臼山・メスリ山両古墳、聖徳太子縁の土舞台、上之宮遺跡など歴史街道に沿って探訪する。

寺田　孝

自然教室チームだより

平成 27 年度　自然観察会について

自然教室チームではH27 年度もいろいろな自然観察会を予定しています。大きく分けて小学校の校庭の自然観察会と会員向けの自然観察会です。

小学校の校庭の自然観察会についてはH26 年度は以下の通り 6 回実施しました。植物の自然観察会 4 回と昆虫採集 2 回でした。実施内容の詳細はネイチャーならに記載したとおりです。

小学校名	月日	内容	児童数
育英小	6/4	植物	41
月ヶ瀬小	6/21	植物	24
佐保台小	6/25	植物	39
帯解小	7/9	植物	36
佐保台小	9/10	昆虫	40
帯解小	9/24	昆虫	27

またこのほかにも 4 月 20 日のアースデーの行事に明日香で一般の方々を対象に自然案内をしました。参加者には喜んでいただきました。

H27 年度も小学校等からの申し込みに応じて、同じように取り組むつもりです。できるだけ多回数実施したいのですが、担当するスタッフが少し不足気味です。もし、面白そうだからやってみようかと思われる方は是非自然教室チームのメンバーまでご連絡ください。

会員向けの自然観察会は　万葉の苑（4/15)、生駒山（5/14)、けいはんな記念公園（7/2)、矢田丘陵（9/16)、甘樫丘（11/18)、私市植物園（3/11 予定）の合計 6 回実施しました。いずれも植物中心でしたが、自然の中でたくましく生きている植物たちの不思議や魅力を観察しました。

またこのほかにも、思い立った時にメンバーが誘い合うオプション観察会（以下 OP とします）として、平城宮跡のイネ科植物、明日香のつる植物（9/30）の観察会を実施しています。

これらの自然観察会の実施内容はネイチャーならに記載したとおりですが、いずれもとても楽しいものでした。

H27 年度についてはH26 年度同様に 6 回程度の自然観察会を実施する予定です。現在予定している内容は以下のとおりですが、「植物はすごい！」をテーマに、いろいろな不思議や魅力を見つけて行きたいと考えています。皆さんの参加をお待ちしています。

行き先	日	内容
京都植物園	5/12(雨天は 5/13)	月例研修会：京とおうみの方々による案内
矢田丘陵	7 月	御宮知先生に案内していただく予定
奈良公園	9 月	奈良公園の魅力を再発見しましょう。
竹林公園～くろんど池	10 月	竹に関する新たな発見があるでしょう。
室池園地	11 月	月例研修会：秋の豊かな植生を観察します。
馬見丘陵公園	3 月	早春の花々やロゼット植物などの観察です。

またオプション観察会としては例えば以下のようなものを考えています。突然決まることが多いため、案内はメールで行います。もし、こうした情報を連絡して欲しい方はあらかじめ担当の倉田までお申込みください。

行き先	日	内容
OP・万葉の苑	4/22	万葉集関連植物の観察
OP・平城宮跡	6 月	イネ科
OP・平城宮跡	8 月	ツバメのねぐら入り
OP・明日香	9 月	つる植物
OP・カエデ園	11 月	様々なカエデの紅葉

平成２７年度歴史文化クラブ計画
―歴史の渚を歩くⅢ―

歴史文化クラブ　代表　川井秀夫

立春を過ぎ春も間近となりましたが、会員各位にはご健勝のことと拝察申し上げます。
日頃は歴文クラブの運営に何かとご理解・ご協力を賜りあつくお礼申し上げます。

さて、年度末を控え、世話人の皆さんと共に新年度の年間スケジュールを策定致しました。前年度のキーワード「古代の渚を歩く」を継承し、神社・仏閣、遺構・遺跡などロマン溢れる近在の地を中心に、時には領域を拡げ、楽しんで参りたいと思います。

歴史は「古代と現代の対話」と言われます。日本と言うこの国のかたちが、どの様に形成されてきたか、日本人としてその実像に迫りながら、混迷する現代に照らし未来への展望を次世代に伝える語り部として、余生をより豊かにありたいと思います。

当クラブも四年目に入ります。稗田阿礼・太安万侶・葛城襲津彦・大海人皇子・神武天皇・役小角・など時代を切り開いたヒーローたちをタテ軸に、敗者の心情、王者の眠る古墳群、今に残る古道、遺跡、遺構を検証、見学して参りました。

今年のプランが必ずしもご期待に副えるものか、確信はありませんが、皆さんから率直なご意見、ご提案（アンコールでも０Ｋ）を頂き今後に反映させて行きたいと考えております。

本年もよろしくご支援の程、お願い申し上げます。

	平成27年度年間計画　統一テーマ「歴史の渚を歩く Ⅲ」			
スポンサー	テーマ	内容	備考	時期
坂東・川井	長岡京跡と桜を訪ねる	長岡京跡と御室仁和寺を巡る	探訪 マイクロバス	4月14日
出雲委員会	（特別企画） 神話の故郷出雲を訪う	出雲大社、出雲歴史博物館、神庭荒神谷遺跡、同資料館、西谷墳墓群等	一泊研修 マイクロバス	5月31日 6月1日
弓場・杉本 寺田	当麻の里を訪ねる	当麻寺、石光寺、笠堂、当麻蹴速神社、鳥谷口古墳（大津皇子）	例会と共催	6月
中井・西谷 （古川）	五條市の歴史探訪Ⅱ	五條市に古事記の伝承地を訪ね藤岡家住宅を見学する	探訪 マイクロバス	7月
川井・弓場 （古川）	鴨川源流の幽谷を訪ねる （有志のみ）	志明院（金光峯寺） 京都市北区雲ヶ畑出谷町	探訪	8月
坂東・岩本 森	馬見丘陵を訪ねる	馬見丘陵の巨大古墳群・かぐや姫伝説	探訪	9月
川井（古川）	山背古道に日子坐王の伝承を訪ねる	椿井大塚古墳、高麗寺跡、蟹満寺、筒木の宮、普賢寺、朱智神社	探訪 マイクロバス	10月
川井・鈴木 （古川）	湖東の史跡探訪	紫香楽宮跡、永源寺、湖東三山など	探訪 マイクロバス	11月 下旬
鈴木・川井 永井	地元史の深掘りと座学	秋篠の里の史跡を巡る 忍熊八幡神社、常光寺、秋篠寺周辺	探訪と座学	12月
中井・弓場 （古川）	新年行事 （有志のみ）	三輪山の磐座と祭祀跡を訪ねる	探訪	1月
中井・古川 藤田・寺田	桜井南部の歴史街道を歩く	若桜神社、安倍山城跡・土舞台、茶臼山古墳・メスリ山古墳、上之宮遺跡	例会と共催	3月

掻痒の因(もと)は何んぞや梅の虫　古川祐司

作者はならやま梅林のボス。瀕死の梅林の蘇生に取り組む。カイガラムシの除去に勲章。かゆみ位、何の何の、成果を信じたい。

魁(さきがけ)てみどりあわあわ落の薹　鈴木末一

野に春の使者。淡色の若緑に季節の移ろい。さあ農園も忙しくなるぞ。年甲斐もなく洗心の思い、また一つ若返る。感性の一句。

里のみち散華の如く風花す　鈴木末一

「風花」は降雪地から流れてくる雪のこと。冬の季語。散華は法会に撒く紙の花。風花に見立てたところが味噌。

春立ちて童たわむる青帽子　八木順一

春が来た、春がきた、どこに来た。燥ぐチビッ子の帽子が揺れる。躍動の季節。年寄りも負けられませんぞ。町の一景を切り取り佳し。

纏向の墳丘に立ち春兆す　八木順一

歴・文ク2月例会。幾つかの墳墓を巡る。大和平野を一望して爽快。吹く風も頬に優しく、もう春はそこまで。古代ロマンに酔う至福のひととき。

春の雪乙木の杜の桧皮葺き　坂東久平

例研3月下見。山の辺、乙木村落の古社がユニーク。瓦葺きが主流だが桧皮葺きとは面白い。道中、春雪に見舞われ印象的。作者も心に残る一句となる。

水仙や日は奔放に茎の尖(さき)　坂東久平

水仙は寒中凛として美しい。植物は向日性が多く、自ら日を浴びている光景だろう。「奔放」の措辞が、冬晴れの二月の季節感を現出していて佳句。

俳句百景

監修　川井秀夫

いにしえの誰(た)が陵ぞ木瓜の花　西谷範子

歴・文ク2月例会。箸墓古墳の被葬者は諸説あるが卑弥呼説が有力。木瓜の花も色は多彩。古代ロマンはどこまでも謎ですかな〜。

春気立つ古代さすらふ纏向に　阿部和生

前句と同工異曲。ただ、下五を弱いキリにしたのが目新しい。上下を　入れ替えると「纏向に古代さすらふ春立てり」でも一句。これは倒置法と言う技法で、時に使うとニュアンスが変わる。お試しを。

病癒え小正月の美酒かな　阿部　和生

お正月は鬼の霍乱とか。酒も呑めずご同情致します。今年の厄落し。小正月の屠蘇は旨かった事でしょう。お年を考え無理は禁物ですぞ。

野良仕事にセキレイと居て春日遅々　羽尻　嵩

里山の一景。小鳥が耕地に餌を啄む季節。作者は生き物に敏感な方、春の一日、人と自然の共存する姿が、微笑ましい。良句ですョ。

春はそこ手足伸ばして深呼吸　青木　幸子

作者は忙中の人。里山のラジオ体操か、忙中閑のひとときか。芭蕉の晩年の「軽み」が良い。益々ご健吟を。

磐之媛の鴛鴦(おし)のひとり寝水の面(おも)　青木　幸子

鴛鴦は（オシ）と読む。媛の身上を「鴛鴦のひとり寝」との比喩がお手柄。

春雪や布留の神杉(しんざん)矮鶏の関(とき)　川井　秀夫

例研3月下見。春の大雪で石上神宮で暫し足止め。チャボがけたたましく鳴く。印象的な光景に思わず一句。捻り過ぎたかな。

癒しの散歩道

のどけき春の恋しき凍れる月

谷川　萬太郎

静けさと空虚さが私の耳元で　そっと息を吹きかけ話しかける
深い眠りの中に身を委ねている田畑に　声をかけてはいけないよ
冷たさに晒されているアスファルトも　じっとその辛さに耐え忍ぶ
夜更けに姿を隠した川の橋の袂に　労いの心を恵んでやれよと
晴れた日の夜空を仰ぎみて皆　月の光浴びているではないか

深い眠りの中で疲れた身体は　どんな夢を見ているのだろう
ただ黙って静寂の中を泳ぎて　澄んだ時の流れは羅針盤のよう
山裾は夜明けを待ちわびるように　心なしか仄かな白きたたずまい
刻む時計の針さえ止まるほどに　微かな寝息が夜空の星に届くよに
清しき空に我が物顔で輝く月よ　貴方は孤独な夜更けの主人公だ

深々と忍び寄る冷たさに冴える月　明るく微笑みかける優しさも忘れ
只見上げる月の美しさに見とれて　いつしか無言のとりこになった
何か話しかけるような月の光の強さは　星屑の煌めきさえも遮るほどに
まだ明けやらぬ夜空にもどかしく　山のシルエットを浮き彫りにさせた
やがて迫り来る朝明けに追われる月は　いつしか深い眠りにつくのだろう

ならやま茶論

「歓喜のヘドロ」

竹本　雅昭

東池：　あー!! やっぱし来た、グランドで使うトンボを持って。おい泥鰌たち早よもっと深く潜れ。
泥鰌：　水を抜かれたのでもうすぐかなと思ってたんだ。おい小さいのん、もっと深く潜らな泥と一緒に放られるぞ。
東池：　おー!! 21 人も揃ってこりゃあピッチあがるぞ。
トンボ：　バケツ達えゝな、行くぞ。こりゃあようけなヘドロや。
バケツ：　船頭さん多いよってフラフラやがな。おいらは安もんのポリやさかい乱暴にせんといてほしいな。
軍手：　何を今さら、もう観念して行けるとこまで行かなしゃあないやろ。わしこそ新品やのに、この作業でポイや。あんたらは洗ってもろたらきれいなもんやんか。
バケツ：　そうやったな人々の手もよう働く手や。一日として休まる事ないし、まして修繕のできるもんでもないのに感心やな。
軍手：　みて見、もう真黒でえらい匂や、人々の服にも泥が飛んで気の毒にな、ほんまに。「そ～れ来た」　「ほ～ら空バケツ」と元気にリレーしたはる。ひょっとして人々の頭には「柳川鍋」が沸き立ってるのと違うかな。
ヘドロ：　やれやれ御役御免で又日の当る所で暮らせるぞ。“バンザ～イ”

水墨画（羽尻　嵩）「冬景色」
水彩画（八木　順一）「美山風景」
水彩画（永井　幸次）「農機具」
陶芸（小島　武雄）「ちょっと気に成る」（赤土、釉薬、青磁）

冬景色

美山風景

農機具

ちょっと気に成る

ならやまプロジェクト

明るく・楽しく・無理せず・諦めず

活　動　予　定　日

3月	５（木）　１２（木）　１９（木）　２６（木）
4月	２（木）　９（木）　１６（木）　２３（木）　３０（木）

◆　場　所：奈良市奈良阪町・佐紀町の県有林［ならやま会館前道路（ならやま大通り）の南側に広がる里山林地］

◆　集　合：現地ベースキャンプ地・**午前９時**

◆　終了予定：午後３時

◆アクセス

①ＪＲ平城山駅下車：東口から南へ徒歩 10 分

②近鉄奈良駅：バス１３番乗り場　115 系統
８：２８発、高の原行き　（平日）

③近鉄高の原駅：バス１番乗り場　115 系統
８：３６発　ＪＲ奈良駅西口行き（平日）

②③とも「佐保台西口」又は「平城大橋」下車
徒歩７分

◆　携行品など：弁当、飲み物、軍手（作業用具は現地で用意）

◆　環境保護のため、お椀、箸、コップなどは各自ご持参下さい。

＊3月まで豚汁あり、お椀を忘れずにお持ちください。

◆　連絡先：木村　裕

３月５日　一斉山作業の日

＜里山 Gr＞椎茸の植菌（**参加者全員で実施**）
植樹の準備（クヌギ苗の抜根、地拵え、支柱用竹伐採）

＜ｴｺﾌｧｰﾑGr＞茄子・唐辛子類・南瓜・トマトなどの播種　水田施肥と耕耘

＜景観 Gr＞大通り清掃
アガパンサスの霜よけ撤去、ニラ移植
ならやま池水生生物調査、池の整備

３月１２日

＜里山 Gr＞ならやま里山林の林内車用周回通路開削(１５地区⇒　１９地区経由⇒　３０地区へ)
薪割り、薪材料の集材・玉切り

＜ｴｺﾌｧｰﾑGr＞馬鈴薯予定畑準備（畝立てなど）
各種葉菜類予定畑準備
茄子・唐辛子・南瓜・トマトなどの幼苗移植

＜景観 Gr＞彩の森草刈り
山野草園の草取り、施肥、柵作り・池の整備

３月１９日

＜里山 Gr＞ならやま里山林コナラ等伐採・整理
薪割り、薪材料の集材・玉切り

＜ｴｺﾌｧｰﾑ Gr＞牛蒡予定畑の準備・馬鈴薯植付け

＜景観 Gr＞彩の森草刈り
山野草園の草取り、施肥、柵作り
ならやま池水生生物調査、池の整備

３月２６日

＜里山 Gr＞クヌギ苗の植樹
ならやま里山林　コナラ等伐採・整理
薪割り、薪材料の集材・玉切り

＜ｴｺﾌｧｰﾑGr＞人参・蕪・牛蒡などの播種
各種葉菜類播種
里芋の植え付け準備
豌豆蔓誘引作業＆除草
（作業の進捗状況により適宜取り組む）

＜景観 Gr＞BC 周辺草刈り・清掃
時計草の剪定と施肥、夏花用畝立て
池の整備

※パトロール班の３月の予定…２ルート変更の検討、コースの階段整備・ロープ鉄杭打ち、自然観察会など

字遊字感

エコファームだより
完成間近の育苗ハウス

◆　昨年、初チャレンジの育苗ハウスによる播種→育苗→移植→育苗プロジェクトが、初年度の取り組みとは思えない程の成果を上げて、専門家の方も驚かれるほどの立派な苗（茄子・唐辛子・ピーマン・トマト・南瓜など）を育てることができました。今年は本格的なハウスを製作し、内部での作業効率を高める構造にしました。内部の空間容量も２倍強とし、寒暖の差ができる限り大きくならないようにしています。

◆　お水取りが過ぎると大和路にも本格的な春が足早にやってきます。エコファームも春作の各種野菜栽培に取りかかります。主な作物としては、馬鈴薯や里芋の植え付け、牛蒡などの根菜類・ホウレンソウ・コマツナ・ネギなどの播種期になります。

◆　イチゴ・・・生育を再開する時期になりますので、土が乾燥しすぎないように管理しなければなりません。また、株間への追肥と黒マルチ被覆をします。

◆　豌豆・・・上旬に１回目の追肥をします。

◆　牛蒡・・・連作障害を受けやすいので、２～３年間栽培歴のない場所を選んでいます。根が地中深く伸びるので７０cm ほどの深さまで耕してから播種します。

◆　コマツナ・ホウレンソウ・ネギなどの播種期になります。

旬菜旬食③
ならやまエコファーム料理（今夜の夕餉）

ならやまで収穫した材料中心の簡単、格安、且つ美味料理

＊メニュー　エビ焼売・野菜餃子・白菜とベーコンのスープ

◆材料（２人分）
合挽きひき肉２００ｇ・白菜６枚・小エビ６匹
ベーコン１００ｇ・春雨少々・餃子の皮３０枚
（焼売用１０枚、餃子用２０枚）

◆調味料・・・・塩・胡椒・醤油・砂糖・油
胡麻油・鶏がらスープ

◆作り方

エビ焼売・・・合挽きひき肉１００ｇに小エビの小さく切ったものと塩、醤油、ごま油（各大匙 1）、胡椒、砂糖少々入れ粘りが出るまで混ぜる。練り上がれば餃子の皮で焼売の形に具を詰め蒸し器で透明になるまで蒸し上げ、からし醤油で食す。

野菜餃子・・・白菜４枚ををみじん切りして塩大匙２杯位で揉んで柔らかくなったら手できつく絞っておく。ひき肉１００ｇにしぼった白菜、醤油、ごま油（各大匙 1）胡椒少々を入れねっとりなるまで煉る。練り上げた具を餃子の皮で餃子に仕上げる。（白菜が多い程柔らかい）
餃子の焼き方・・・フライパンに油をひき、餃子を少し間隔をあけて並べ、熱湯を餃子の半分の高さまで入れ透明になるまで焼く。透明になったらお湯を捨て、ごま油を上からまぶしいれ焦げ目がつくまで焼いて出来上がり（餃子のたれ又はポン酢で食す）

白菜とベーコンのスープ・・・白菜２枚を大きい目のざく切りにする。鍋に４カップの水、鶏がらスープ、ベーコン（３cmくらいに切る）白菜を入れ沸騰したら春雨（湯がいたもの）をいれ、胡椒、醤油少々で味付けする。

＊野菜は白菜の代わりにキャベツでも良い。
＊餃子・焼売は沢山作って冷凍しておくと便利。

行事案内 part 1

3月・月例研修会（歴・文クラブ共催）
「早春の山の辺の道を歩く」

ＪＲ長柄駅　～　ＪＲ天理駅

早春の息吹を感じながら、大和の原風景を愛で、上代の古社・遺構・古墳を訪ねます。春の野辺の草花も楽しんで下さい。

①開催日：平成２７年３月２４日（火）
（前日７時　ＮＨＫ降雨率６０％以上の場合中止）
②集　合：**ＪＲ・長柄駅　ＡＭ　１０：００**
ＪＲ長柄駅着　和歌山行き：９：５８
奈良行き：９：５０
③行　程：長柄駅～大和神社～下池山古墳～刀根早生柿発祥の地～萱生・竹之内環濠集落～萱生の千塚～十二神社～夜都伎神社～内山永久寺跡～石上神宮～天理駅
（３：３０分頃解散　歩程　８㌔）
④携行品など：飲み物、防寒対策、弁当
⑤担　当：川井・坂東・寺田

５月歴文特別企画「神々の故郷出雲を訪ねる」お知らせ

大和の古代史とも関わりの深い「神々の故郷出雲」を訪ねます。神話と歴史の里を訪ねロマンの翼を大いに広げたいと思います。

・日　時：**5月31日（日)、6月1日（月)**
・費　用： 25千円（宿泊料、貸切バス代など）
・見　学：出雲大社、神庭荒神谷遺跡他
・人　数：25名～28名　　お礼とお断り
歴文メンバーには既にお知らせ済みで、現状、満員・キャンセル待ちとなっています。

自然教室チームだより

「春の妖精たち」を訪ねて！
－早春の私市植物園を楽しもう！－

大阪市立大学付属植物園（私市植物園）で春の息吹にあふれる自然を楽しみましょう。

カタクリやキクザキイチゲなど春の訪れを告げ、スプリング・エフェメラルと呼ばれる草花がたくさん見られるでしょう。

またウグイスカグラ、マンサク、ロウバイ、レンギョウなど木々の花ももう咲いて、私たちを迎えてくれると思います。

寒い冬を耐えて、たくましく生きてきた植物たちの力強い姿をじっくり観察しましょう。

どなた様の参加も歓迎です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

１．日時：**3月11日（水）10時～14時**
２．集合場所：私市植物園の園内
（交野市私市 2000　TEL-072-891-2059）
入園料 350 円が必要です。
３．持参物：昼食、飲み物、防寒具、雨具、ルーペ、あれば図鑑など
４．進め方：特に外部の講師は頼みません。お互いに知っていることや気が付いたことを教えあいながら進みます。
５．交通の便…一例です。
＊ＪＲ学研都市線・木津 8：57－(快速)－河内磐船 9：29－(徒歩 5 分)－京阪電鉄・河内森 9：37－私市 9：39　(徒歩 10 分)
＊車の場合は駐車料金 500 円です。
６．連絡先：自然教室チーム　倉田　晃

行事案内 part２

４月・月例研修会（予告）お花見ハイク

「幻の大仏鉄道を巡る」

明治 31 年に、京都府南部のＪＲ加茂駅―（大仏駅）－ＪＲ奈良間に開業した関西鉄道大仏線。僅か９年で廃業しましたが、今でも 100 年前の鉄道遺構として、橋台や隧道（トンネル）が里山に散在しています。ハイキングロードとしても人気があります。今回は木津駅からスタートして、「西念寺」「鹿背山城跡」「鹿背山不動」にも立ち寄ります。桜も楽しめそうですのでみなさま奮ってご参加ください。詳しくは４月号でご案内します。

（1）開催日：　**平成 27 年４月８日（水）**
（2）集　合：　ＪＲ木津駅　９：００
（3）コース：　ＪＲ木津駅⇒西念寺⇒鹿背山城跡⇒鹿背山不動⇒梶ヶ谷隧道⇒鹿背山橋台⇒観音寺橋台⇒汽車モニュメント⇒ＪＲ加茂駅
（4）幹　事：　川井　青木

奈良学クイズ

写真の仏像について、次の問いにお答えください

① 名称と所蔵寺院、そして重文又は国宝のいずれか。
② 仏像名に含まれている漢数字は何か。

［応募方法］メール（広報）or　FAX
［締切］３月１日（日）　［景品］自然木クラフト作品

【２月号の答え】虚空蔵菩薩座像・東大寺大仏殿

歴史文化クラブ4月研修会（予告）

「長岡京跡と桜を訪ねる」

今回は、マイクロバスで、「長岡京跡」と京都御室の「仁和寺」を訪ねます。

桓武天皇は平城京から平安京に遷る前１０年間、都を「長岡京」に移しました。向日市文化資料館と長岡京跡遺跡をガイドさんの案内で巡ります。

仁和寺では桜シーズンの最後を飾る「御室桜」を楽しみたいと思っています。仁和寺は最初の門跡寺院であり、「仁和寺門跡」、「御室御所」ともいわれており、山号は大内山と言います。

「御室桜」（国の名勝）は、木の張り丈が低く、遅咲きで、根元より単弁の香り高い白花が咲くことで知られています。

国宝の金堂や白書院の庭、創建時の金堂・本尊だった「阿弥陀三尊像」（国宝）などが有名です。

当日は桜祭りで、御殿拝観（５００円)、お庭拝観（５００円）です、両方でも何れか片方でも自由にお楽しみ頂く予定です。

奈良帰着は１６時頃を予定しています。

①開催日：**平成 27 年　4月１４日（火）**
②集　合：近鉄奈良駅前　８時３０分
③参加費：３，０００円
④定　員：２７名
④担　当：川井、坂東
⑤　申込先：歴史文化クラブ事務局　古川祐司
メールまたはFaxで申込んで下さい。

平成２７年・２月度幹事会報告

◆日　時：平成 27 年２月３日（火）17:00～21:00
◆場　所：中部公民館
◆案　件：

Ⅰ会長挨拶
1/21 県より、国土交通省の「古都保存法」見直しヒアリングへの協力依頼があり対応した。

Ⅱ報告事項
①会員動向：153 名　(前月と変わらず)
②会計報告：主な収支について説明がなされた。
③月例研修会、イベント等の活動報告：
・1/18 シニア自然大学校進路ガイダンスに参加し当会への入会案内を行った。
・1/24 新春講演会を開催した。参加者は 61 名。

Ⅲ検討事項
①ならやま：1 月実績報告、2 月度活動予定
雨で２日が臨時活動日となった。1/29 は一斉活動日にし､山の整備と池の泥上げを実施した。
②H27 年度月例研修会年間計画について
先月の指摘事項を明確にして年間計画を承認したので、各行事の担当幹事の選任を行う予定。
③H27 年度グループ別活動方針と予算要求案
H26 年度予算の執行状況を踏まえて、各グループ別に活動方針と予算案の説明が行われた。
④H27 年度総会スケジュールについて
５月１７日(日)14:30～16:30、奈良市生涯学習センターで開催予定。10 年表彰を同時に行う。
⑤H27 年度会費徴収について
運営の基盤である会員の確定と切れ目のない保険設定のため、3 月末までに会費を徴収する。
⑥H27 年度新入会員歓迎会は 3/19 の活動日に、前年の歓迎対象者が中心となり計画、実施する。
⑦林野庁交付金事業の進捗状況について
・予算執行状況の報告がされた。1、2 月の一斉山作業でほぼ計画通りの成果が見えてきた。
⑧ネイチャーなら 3 月号の編集を確認した。
⑨4/19 ならコープのアースデイに出店する。
⑩ならやま交通費を前年並みに支給する。

Ⅳ確認事項
⑪2～4 月のスケジュール表の日程を確認した。

以上

◇　申し合わせ　◇

※　ならやまでのプロジェクト活動やイベントは､前日午後7時前のNHKTV天気予報で奈良県北部の降水確率が午前60％以上の場合は､中止になります。
※　通常活動日【木曜日】が､雨天等により中止になった場合､翌日【金曜日】を臨時活動日とします。

ペン画に寄せて　　　境　寛

犀　今までは、動物は一枚もなく昆虫でギフチョウを描いたのみです。今回は、写真からおこしたもので、野生のサイは見たことがありません。
アフリカ､東南アジアに生息する大型の哺乳類。大きいもので体長 4mにも達し、象に次ぐ大きさを誇っています｡最大の特徴は頭部に生えた角で､一本もしくは二本が顔の前面に突き出している。この角は骨よりも、人間の爪や髪の毛に近く、折れても時間がたてば再生するそうです。

編集後記

◆｢『オアシス運動』を実践しよう。｣嘗て色々な場面で展開された。人間関係の希薄化が進む今日､｢おはようございます｣「ありがとうございます」「失礼します」「すみませんでした」。実社会やネット上でもこのような会話などを交わし合うことが大切ではと思う。『梨の礫(なしのつぶて)』ではなく、意志疎通を図り相互理解のためにも。お互いに日々感動・日々トキメキのためにも。（里山人）

会報誌［ネイチャーなら］･第158号
発行：奈良・人と自然の会
会長　藤　田　秀　憲
http://www.naranature.com

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

編集チーム代表：鈴木末一